

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史科／地理B】

1. 対象

1年次は現代社会を履修し、2年次は世界史Aと地理Bを履修している。グループワーク等を実施した際には積極的に対話を行い、自身の意見を述べることに抵抗のない生徒が多い。地形図や地図帳、グーグルアースに触れる機会を毎時間設定することで、活動を通して学び合う姿が定着している。前単元では、世界の地形について学習し、地形が人々の生活に与える影響を理解してきた。

2. 単元名「日本の自然の特徴と人々の生活」（全4時間）

使用教科書 ○○出版『新詳地理B』第Ⅱ部第1章自然環境 3節日本の自然の特徴と人々の生活

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	①日本列島における自然災害について具体事例を通じて、災害の仕組みや特徴、地域性、防災への取り組み方や課題を理解する。 ②地図やGISなどを用いて防災に関する様々な情報を適正かつ効果的に読み取り、まとめる技能を身につける。
思考力、判断力、表現力等	①日本の自然環境と自然災害の関係などの主題を基に、「自然災害にどのように対処すればよいだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②自らの生活圏の防災について、資料から適切に判断し、課題と避難行動を協議する。
学びに向かう力、人間性等	日本の自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

4. 本時の目標

日本では毎年のように気象災害が発生している。気象災害にはどのような種類があり、どのような被害をもたらすのかを理解する。また、学校周辺で予想される自然災害は何かを地形図や過去の災害資料から読み取り、気象災害に備えて、どのような取り組みが行われているかを考察する。

5. 授業展開【本時・単元】

解決したい課題や問い
学校周辺ではどのような災害が発生しやすいだろうか。

考えるための材料		
材料A 学校周辺の地形図 新旧比較	材料B 七夕豪雨の写真や映像 『七夕豪雨の体験記録』	材料C 静岡市の地名の由来 『静岡市町名の由来』 鈴木雄蔵著
想定される活動		
かつては、ほとんどが水田だったことに気づく。 水路や遊水地が多く、河川や水路の変化に気づく。	七夕豪雨の際に長尾川が決壊し浸水被害を受けていることに気づく。七夕豪雨の際に本校が避難場所になっていた。	川合、沼上、瀬名、麻機、上土など水に関する地名が多いことに気づく。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

① 学習課題の確認

「学校周辺で起こりやすい自然災害は何か。」

個人の予想を確認

- ・大雨によって山間部や台地の縁では崖崩れや地すべり、土石流などの土砂災害が起こる。
- ・大雨が降るとグラウンドがぬかるんで、しばらく使えなくなる。
- ・下流の平野部では、河川の氾濫などによる洪水が起こる。
- ・地表面がアスファルトやコンクリートで覆われているため、雨が地下に浸透せず、河川の水位上昇、低地への浸水が起こる。
- ・液状化現象
→水はけが悪いのはなぜか。→近くに河川がいくつもある。→氾濫原？

② 資料から読み取る。【個人→ペア】

資料A 地形図の新旧比較

- ・水路や遊水地などが多い。→河川の氾濫を防ぐための対策だろうか。

資料B 七夕豪雨の記録

- ・現在みられる建物がない。町全体が浸水している。→なぜこのようなことが起きたのか。

資料C 地名の由来

- ・「川合」「瀬名」「沼上」「上土」など、水や埋め立てに関連した地名が多い。→水害や治水の影響か。

③ 全体共有をして考察を深める。

静岡県防災情報マップ「浸水避難地図」や洪水ハザードマップを確認し、七夕豪雨で浸水被害があった地域とマップの被害想定地域に変化がみられる。

→砂防ダムや堤防、調節池や水路、排水システムの建設

④ 「学校周辺で発生する災害は何だろうか。」

本時の問いに対する自分の考えを記入する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・土砂崩れや河川の氾濫が起こりやすい地域である。
- ・河口の位置や高さが増えると、それに合わせて、河川の侵食・堆積作用が働いて地形が変形する。
- ・新旧の地形図の比較から、土地利用の変化が分かった。かつては水田が多く立地していたことから、長尾川や巴川の氾濫原だったのではないかと。
- ・後背湿地の上にグラウンドが建設されたので水はけが悪い。
- ・日本の河川は大陸の河川と比べて、短くて急こう配であることがわかった。身近な安倍川や長尾川、巴川の治水の歴史を知ることができた。
- ・学校周辺は何度も浸水被害が起こっているが、七夕豪雨のときより被害規模は縮小している。長尾川上流の治水工事や下流域に水路が建設されたからではないかと。
- ・静岡県以外ではどのような防災や減災の対策を行っているのだろうか。
- ・途上国での防災や減災に役立てる技術があるのではないかと。
- ・自然災害による被害を防ぐためにできることは何か。
- ・土木技術の発達について興味をもった。
- ・想定外を想定する必要があるのではないかと。

本校がある場所は、巴川と長尾川の合流地点に位置し、かつては河川の氾濫や洪水の被害が多発していた地域である。水に関する地名が多いことや、昔の地形図からも、湿地や水田が多い地域であるといえる。しかし、遊水地や水路が建設されたことにより、現在のハザードマップでは、深刻な浸水が想定されていないことが理解できた。